



10年間のこと

久しぶりに日本マーガリン工業会の専務理事と呑んだ。業界紙の記者から、今年九月に専務が職を辞するという話を聞いたからである。そして9年半の勤務のなかで印象に残ることを聞いてみた。

まずは、着任早々に所管省庁に挨拶に行った時に、『『マー工』かぁ』と言われて、「？」と感じたという。業界用語？判らないよねえ。書いてあっても「まーえ」と読むだろう。しかし、「まーこう」はなかなか云い得ている。もう一つの構成団体であるマーガリン公正取引協議会も略せば「マー公」であるからだが、こちら意識して「まーこう」と言っている者は全くないだろうと笑っていた。

そして何と言ってもトランス脂肪酸関係だという。今でも表示の検討では表示義務化が話題になったり、事務局には問合せや意見があるという。

平成20年の着任早々に、消費者庁が発足し、与野党逆転で社民党の党首が担当大臣になり、就任間もない記者会見で、トランス脂肪酸の表示義務化を命じたと発表した。消費者庁職員も青天の霹靂であったと思う。会見の前の月の社民党機関誌にトランス脂肪酸についての間違いだらけの記事が掲載されていたが、大臣命との関連は不明である。されど内容の適否はともあれ、大臣命である。職員は義務化で検討しなくてはならず、結局、平成23年2月に「トランス脂肪酸の情報開示に関する指針」が公表された。任意の表示であるが、トランス脂肪酸の含有量を表示する場合には、当時悪者とされていた飽和脂肪酸及びコレステロールの含有量も併せて表示するというものである。また、普及推進には、その解説やQ&Aなどが出されるのが普通と思うが、本指針にはそれらが無い。

そして一年後の24年3月には、食品安全委員会がトランス脂肪酸の健康影響評価を行い、評価書を公表した。日本人の大多数はWHOの目標を下回っていて、通常の食生活では健康への影響は小さい。しかし、脂質に偏った食事をしている人は留意する必要があること、脂質は重要な栄養素でありバランスの良い食事を心がけることが必要との内容である。「マー工」としてもトランス脂肪酸の低減やバランスのとれた食生活の推進を掲げ、継続努力していくとのことである。最近10年で硬化油の使用量も半減したという。

また、今年の消費者団体との意見交換の場で、低減と食生活のことを言ったら、「あんたの団体に言われたくないよ」と言った団体があったとのことで、その時に「巡る状況の違いも踏まえずにアメリカに追随するのではなく、科学的根拠をもって判断すべきで、遺伝子組換え……」と喉まで出たが、「それを言っちゃあ、お仕舞よ」とぐっと堪えたとのこと。

加えて、自称ライターという女性が電話で、トランス脂肪酸について誤解しているようなことを言うので、上記の評価書など国の報告書を紹介すると、「私、政府の言うことは信用しませんので……」というのには流石に呆れ返ったという。専務は不勉強な方が多いと言いたかったのかもしれない。

長くなってしまったので、今回はこれくらいにして、次回も引き続き……。

麻賀倫太郎